

◇被災地とつながる絵本◇

いのり

～ポポからの招待状～



作・菅原みさお

本文テキスト作成・にしの よしえ

企画制作・きむら さやか



◇絵本を読んでもくださるみなさまへ◇

絵本に描いたことは私が体験したことをそのまま描きました。
両親を失った子供たち、夫を、妻をたいせつな思い出を
一瞬に海に持っていけました。
その悲しみは簡単には癒えません。

その悲しみの中で、わたくしは、多くの方に支えていただきました。
そして、今の私がいます。

生かされた者として、その命を無駄にすることなく、
力強く生きて生きたい。
その場を、あたえられるならば、避難所で、仮設住宅で、描いた絵を
みなさまに見ていただきたいと願っています。

3,11をへて私は、諦めることを、やめました。
諦めるのは、死ぬ直前でいい、そう思うようになりました。
みなさまも日頃から、災害にそなえ、
命を、大切に生きていることに誇りをもって
生き抜いていただきたいと心からそのようにねがっています。

2012.3.26

ポポ（菅原みさお）

菅原みさおさんとお会いしたのは、
亘理町のいちごっこさんという、コミュニティスペースでした。
震災当時に描かれた実際の絵をみせていただき、
ほんわかと包み込まれるような やわらかい数々の絵と、
こちらの絵本を読んでもいただきました。

菅原さんの想いの詰まった絵本が
たくさんの方の目にとまりますよう願ってやみません。

にしのよしえ

◇みさおさんからのメッセージ ～5月～◇

5月、
桜がすっかり散って、
土の上がピンクのジュウタンで、とても綺麗です。

ああ、生きてるんだな、って、、、

外はあたたかくなるにつれ、
放射能の数値が高くなってきて、
不安を感じながら日々を過ごしています。

漁師の方々は荒浜沖のスズキが、100ベクレルを超え漁を自粛している。
農家の方々も風評被害で米や野菜が売れなくなって、先が見えない。

一生懸命頑張っていい物を作ろうと、
美味しい物を食べていただきたい、とやってきたのに
これほど悔しいことがあるだろうか。

それでも、国は原発再稼動に走ろうとしている。
また、同じことがどこかで、繰り返される。
その時、人々はどうなるのだろうか？
どんな、優れた頭脳と技術をもってしても、
人は、自然の猛威の前には無に等しいのだ、、、。

ということを
今回のことから学ぶべきである、、、と私は思う。

2012, 5, 2

みさお

いのり

～ぽぽからの招待状～



作・菅原みさお



突然 ガタガタガタ 「あっ地震、こわい、どうしよう」

ポポは、いつでも大事な物は、すぐ持ち出せるように、
 バッグの中にまとめて持っていました。
 そのバッグを持って、外に飛び出しました。

平成23年3月11日午後2時46分、

とても激しくて、今まで感じたことのないゆれでした。



アスファルトの道路がどろどろとけて近づいてきました。

そして足元で止まりました。液状化現象です。

地震は小さくなっていました。

ポポはほっとして、家に入りました。

すると、またゆれはじめました。

今度は何も持たず、外に飛び出しました。

やがて、ゆれがなくなったので
ポポは玄関に入りました。
と同時に
「津波が来るから二階に上って！」と
外から、さけび声が聞こえました。



ポポは、だいじな物が入ってるバッグのことが、
気にかかりましたが、
そのまま二階に、かけ上りました。

やがて、ゆれがなくなったのでポポは玄関に入りました。
と同時に「津波が来るから二階に上って！」
と外から、さけび声が聞こえました。

ポポは、だいじな物が入ってるバッグのことが、
気にかかりましたが、
そのまま二階にかけ上がりました。



ポポは、おそるおそる窓から外を
のぞきこみました。
すると車は浮いて、隣のかべに横たわり、
ウッドデッキはさかさまになって
流れていきました。
水は階段の5段目くらいまできていて
もう、どこへもにげられぬ……
と思いました。



電話はどこへも
つながりません。
大きな余震が何度も続きます。
そのたびに
“私はここで死ぬかもしれない”
と思いました。

ポポは、おそるおそる窓から外をのぞきこみました。
すると車は浮いて、隣のかべに横たわり、
ウッドデッキはさかさまになって流れていきました。
水は階段の5段目くらいまできていて、
もう、どこへもにげられない……と思いました。

電話はどこへもつながりません。
大きな余震が何度も続きます。

そのたびに「私はここで死ぬかもしれない」と思いました。



「神様!助けて!」

ポポは、ただひたすら祈りつづけました。

外では、町の放送が流れています。

「二度目の津波が来るおそれがあります。
すぐに高台に避難してください!」



ヘリコプターが海岸の方向へ行ったり来たりしています。

「どうか気づいて! 神様!」

ポポは手を振り続けました。
外はだんだん暗くなっていきます。

「助けて〜!」

聞こえるはずもないのに、
ヘリコプターに向かって、ポポはさけんでいました。
電気もなくストーブも使えず、
寒さと恐怖で体のふるえは止まりませんでした。



夜が明けて、
窓から外をながめると
家のまわりで魚が泳いでいました。
「あっ！魚が泳いでる」
湖の中に浮いている我が家で
「私は確かに生きている！」
そのことが、とても不思議に
思われました。

お昼頃
「これからボートで助けに行くから」
と声が聞こえてきました。
外を見ると、高速道路の下に、4、5人
の消防団の姿が目に入りました。
「ああ！私は助かったんだ。」という
思いがわきあがってきました。

夜が明けて、窓から外をながめると家のまわりで魚が泳いでいました。

「あっ！魚が泳いでいる」
湖の中に浮いている我が家で
「私は確かに生きている！」
そのことが、とても不思議に思われました。

お昼頃「これからボートで助けに行くから」
と声が聞こえてきました。

外を見ると、高速道路の下に4、5人の消防団の姿が目に入りました。

「ああ！私は助かったんだ」
という思いがわきあがってきました。



ポポはあわててバッグをさがそうと思いました。
家庭用のゴミ袋を両足にはいて、ひもでぐるぐるまいてしばり、
竹棒を持って、真っ黒な水の中に入っていました。
竹棒で水の中を探りながら前に進もうとしますが、
ヘドロで足がぬけません。

「わあー、動けない。どうしよう」
「ああ！神様」

ポポはやっとの思いでバッグを見つけ出すことができました。
そしてボートに乗り込みました。

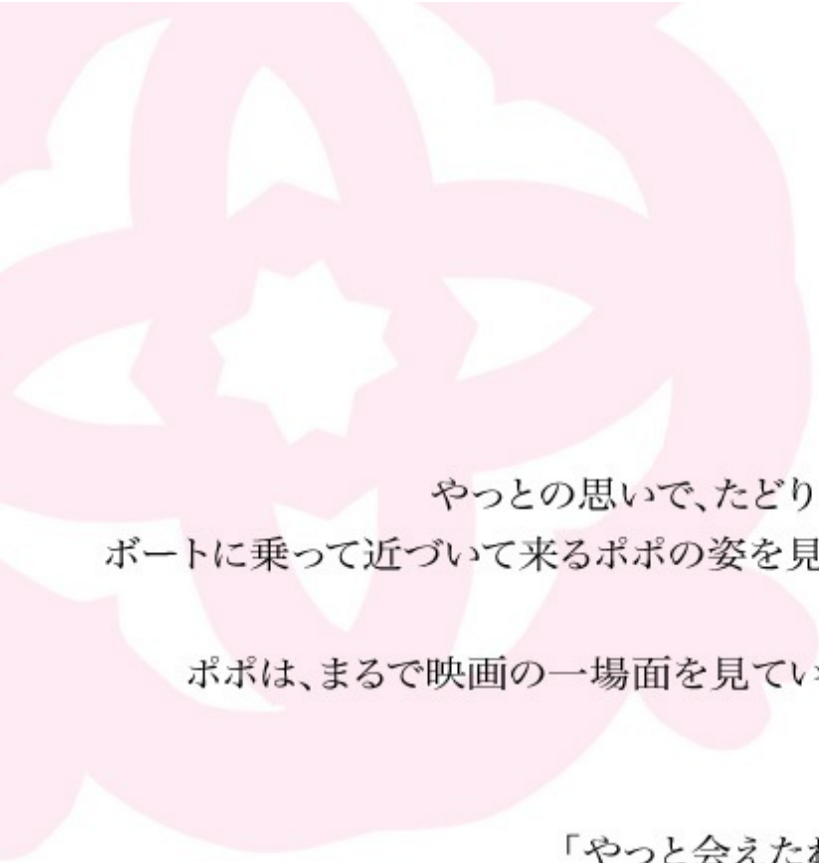


岸に近づくとそこにケイさんの姿がありました。
ケイさんは夕べ仙台から自転車で帰ってきたのでした。
そして7か所ある避難所をまわりポポをさがしました。

けれどどこにもいません。

警察にも行ってみました。
が、何の情報も得られませんでした。

とにかく家まで行ってみようと思いました。



やっとの思いで、たどり着いた時、
ボートに乗って近づいて来るポポの姿を見つけることができたのでした。

ポポは、まるで映画の一場面を見ているかのように思いました。

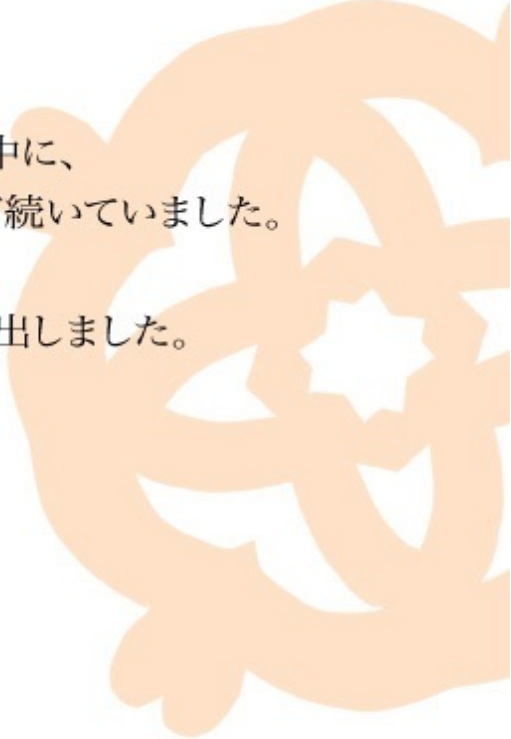
「やっと会えたね」

「よかったね」

二人の会話でした。

湖となった川と田んぼの真ん中に、
やっと車が一台通るくらいの道が真っすぐ続いていた。

ポポらに乗せた車は避難所へと走り出しました。



小学校の体育館が避難所となっていました。
各部落の班長が中心となって行方不明者と生存者の確認で避難所は、ごったがえしていました。
一人にあたえられたスペースは畳一畳の空間でした。
くばられた二枚の毛布だけでは寒くて、
眠っては寒さで目がさめ、眠っては寒さで目がさめ、
そんなふうに一晩すごしたのでした。



小学校の体育館が避難所となっていました。

各部落の班長が中心となって行方不明者と生存者の確認で
避難所は、ごったがえしていました。

一人にあたえられたスペースは畳一畳の空間でした。

くばられた二枚の毛布だけでは寒くて
眠っては寒さで目がさめ、眠っては寒さで目がさめ、

そんなふうに一晩すごしたのでした

翌日、近くに友人がいるので行ってみようと思いました。
友人宅は、地震だけの被害でしたが、屋根のかわらが落ちたり、家具がたおれたり、みんな、たいへんな
思いをしたことを、新ためて、実感したのでした。
ふろに残っている水で、ヘドロで真っ黒になったサイフや小銭
を洗わせてもらいました。「何か必要な物ない？」

という友人の言葉に、とても
あたたかいものを感じました。
そして
毛布と画用紙を
もらい、避難所へ
と戻りました。



翌日、近くに友人がいるので行ってみようと思いました。

友人宅は、地震だけの被害でしたが、
屋根のかわらが落ちたり、家具がたおれたり、
みんな、たいへんな思いをしたことを、
あらためて、実感したのでした。

ふろに残っている水で、
ヘドロで真っ黒になったサイフや小銭を洗わせてもらいました。

「何か必要な物ない？」

という友人の言葉に、とてもあたたかいものを感じました。
そして毛布と画用紙をもらい避難所へと戻りました



2011.3.19 制作「祈り」

「私にはもう描けないかもしれない」

地獄を見た思いのポポはそう思いました。

無心になって筆が流れるままに描いていきます。

シャボン玉は、多くの亡くなられた人々…魂です。

愛しい家族と無理やりひき離された現実に向かい合い

どうぞ安らかにと“祈り”を描きました。





2011.3月 制作「希望」

そして力強く生きる人々の姿を願い

“希望”を描きました。

避難所生活が始まって一週間
 自衛隊の方々がやって来ました。
 “何かしてほしいことありますか？”という問いに
 ポポは
 “お風呂に入りたいです。あと、みそ汁が飲みたいです”
 と答えました。
 翌日の朝、スタッフの方々が
 “今日の朝は、おにぎりにみそ汁がつきます”
 自衛隊の方々がみそ汁を作っ
 てくださいました。



みんな歓声をあげて
 拍手をしました。
 あったかくて、
 おいしいみそ汁でした。
 そして、その夜には
 お風呂にも入れるようにな
 りました。

避難所生活が始まって一週間、自衛隊の方々がやって来ました。

「何かしてほしいことありますか？」

という問いにポポは

「お風呂に入りたいです。あと、みそ汁が飲みたいです」

と答えました。

翌日の朝、スタッフの方々が

「今日の朝は、おにぎりにみそ汁がつきます」

自衛隊の方々が、みそ汁を作ってくださいました。

みんな歓声をあげて拍手をしました。

あったかくておいしいみそ汁でした。

そして、その夜にはお風呂も入れるようになりました。





少しづつ物資もとどくようになりました。
みんな着の身着のまま避難して来た
ので生活するのに必要な物、
何もかもない状態でした。

一週間すぎても、
なかなか水はひかず、
家には立ち寄れない状態が
続いていました。
掲示板に荒浜の写真が
はってありました。

新鮮な魚で、にぎわって
いた町が一瞬にして
廃墟となっていました。
ポポは両手目をおおい
ました。だけど、これが
現実なのだと思いました。
現実、今まで見た、どんな映画
よりも残酷で悲しいものでした。

少しづつ物資もとどくようになりました。
みんな着の身着のまま避難して来たので
生活するのに必要な物、何もかもない状態でした。

一週間すぎても、なかなか水はひかず、
家には立ち寄れない状態が続いていました。
掲示板に荒浜の写真がはってありました。

新鮮な魚で、にぎわっていた町が、一瞬にして廃墟となっていました。

ポポは両手目をおおいました。
だけど、これが現実なのだと思いました。
現実、今まで見た、どんな映画よりも残酷で悲しいものでした。



みかさんが
画用紙と筆を避難所にとどけてくださいました。
そして
こうして描ける自分は、
なんて幸運なんだろう
と
神様に感謝しました

みかさんが画用紙と筆を避難所にとどけてくださいました。

そしてこうして描ける自分は、
なんて幸運なんだろうと神様に感謝しました。





ポポは無中で描き続けました。
ポポの絵を熱心に見つめている一人のスタッフ
に気づきました。
“祈り・希望・愛”をテーマに描いて
いることを伝えました

その方は、とても感動してくださり
“もっと多くの人たちに
この絵を見せてあげて……”

その言葉に胸があつくなりました。
“はい!必ずそうします”
ポポにとって、大きな大きな
出会いとなりました

翌日、その方は
福島へと帰
って行きました

ポポは夢中で描き続けました。

ポポの絵を熱心に見つめている一人のスタッフに気づきました。
“祈り・希望・愛”をテーマに描いていることを伝えました。

その方は、とても感動してくださり
「もっと多くの人たちにこの絵を見せてあげて……」

その言葉に胸があつくなりました。
「はい!必ずそうします」
ポポにとって、大きな大きな出会いとなりました。

翌日、その方は福島へと帰って行きました。



四月になってあたたかくなってきました。

外はマスクをしていてもほこりが目に、
つきささってくるような、いたみを感じました。

のどがいたくて、せきこむと止まらなくて、
夜中に救急のお医者さんに、何度もかけこみました。
24時間マスクを離せない状況が続きました。

ポポにとって描き続けることが
生きている“あ・か・し”でした。



5月の終り頃 大宮の兄のところへ出かけ
2週間ほどお世話になりました。

兄の家は閑静な住宅街の一郭で、
まるで別世界へ入りこんだようでした。

姉さんとしょうぶ園へ行ったり、
楽しい時間が過ぎていきました。



避難所へ戻ると、ポポあてに封書がとどいていました。

中には 柴田とよ著『くじけないで』詩集がありました。
裏には電話番号と名前がありました。

ポポは「あの方だ」あの時の感動が体中によみがえりました。

すぐに電話をしました。

あの方は描いた絵を絵はがきにし、販売して絵を描き続けるようにと
ポポの、これからのことを考えてくださっていたのでした。

絵はがきを売ってくださると言うのです。
感謝の気持ちで、いっぱいになりました。

がんばってみようと思いました。





仮設住宅入居の知らせがきました。
四ヵ月間の避難所生活も終りに近づきました。

かぎを受け取りへやに入ってみました。

生活用品のほとんどそろっていることに、
胸がいっぱいになりました。

友人宅に預けていた、パソコン、コピー機も運びこみました。



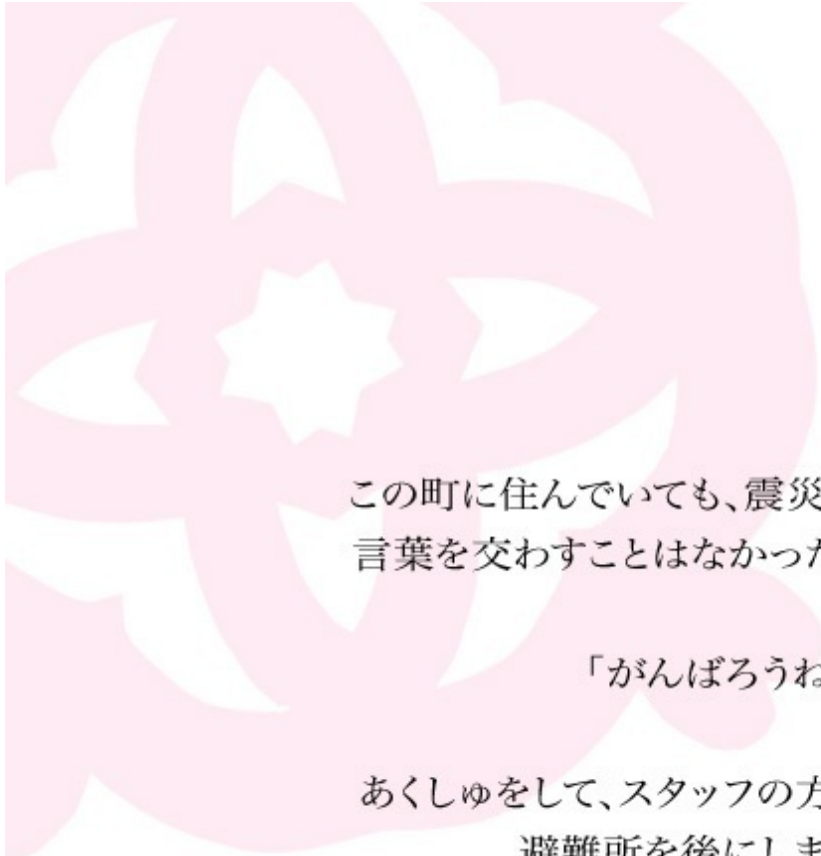
いよいよ引越しの日です。

長い長い四ヶ月間でした。

避難所は部落ごとに配置されていました。

「今まで、こんなにおしゃべりしたことなかったね」

と、言葉を交わしながら、
泣いたり大笑いしたりの日々でした。



この町に住んでいても、震災がなかったなら
言葉を交わすことはなかっただろう人々・・・

「がんばろうね」

あくしゅをして、スタッフの方々に感謝して、
避難所を後にしました。

これから先のことはわからないけれど、

神様に生かされた、
この命をたいせつに生きていこうと

ポポはあたためて思っていました。





ポポは
絵はがき製作に
とりかかりました
友人やボランティアの方に
いただきたから
300枚の絵はがきを製作し
送ることができました

ポポは絵はがき製作にとりかかりました。

友人やボランティアの方に
助けていただきながら

300枚の絵はがきを製作し送ることができました。





絵本製作はポポの小さい時からの夢でした。

いつの間にか、
その夢を忘れ去っていました。

ずさんでいた心の中に神様が入り込んで、
ぽっかぽかのそよ風が流れたのです。
そして描くことの喜びを味わうことができました。

震災という残酷で悲しいでき事を通して、
ポポは“い・の・り”という名の絵本を生みました。

◇みさお絵葉書ギャラリー◇

菅原みさおさんが絵本のほかに避難所で描かれた絵を
16枚の絵葉書セットにしました。
こちらの絵葉書セットを2000円でお譲りして得た資金で、
なんとかパソコンと画材を購入して、
絵を描き続けていきたい、と願っておられます。

絵葉書セットご購入によるご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



祈り～しゃぼん玉になって
あなたは 空高く舞い上がる～



希望～生かされて 私はあなたと二人分
心の中に生きている～



愛～蝶になって 飛べたらいいね～



愛～お月様に ゆらりゆられ
笑っていつも輝いている～

◇みさお絵葉書ギャラリー◇



さくらが やさしく私を包み込む (2011.4.26)



ふうせんに 私の思いをつめて とどけよう (2011.4)



飛んでみた 会いたくて



ランの気高さが まぶしくて



私は元気に生きてる
きえない思い出といっしょに

◇みさお絵葉書ギャラリー◇



泣いてみる 明日から笑うために (2011.5.17)



藤の花びらが 涙を消していく (2011.5.20)



夜空を見上げて 私は大丈夫

◇みさお絵葉書ギャラリー◇



あなたに 愛を……。 (2011.6.3)



ばらの花束をどうぞ (2011.6)



前に向かって 歩みだす (2011.7)



しょうぶが まるで母のようで (2011.7.8)

絵葉書セットをお申込み下さる方は、
下記のページの菅原さんのご住所宛に直接お願いいたします。

<http://blogs.dion.ne.jp/popokarano/>

絵葉書セットはお好きな絵柄 8枚（1000円）でもご支援頂けます。

詳しくは菅原さん宛にメールで直接ご相談ください。

"菅原みさお" <misao271102@ae.auone-net.jp>

◇企画制作にあたって◇

昨年夏から「ふんばろう東日本支援プロジェクト」に参加している私は、
同じくこのプロジェクトに参加している にしのよしえ さんからの
Facebookへの投稿によって、
菅原みさおさんの絵本「いのり」と出会うことになりました。

宮城県の亘理町で被災した菅原さんは、
ご自身の3.11体験を避難所生活のなかで絵本にされて、
多くの方に見てもらいたいという思いから、
ブログで公開されています。
菅原さんの絵本「いのり」を見たとき、
「生々しい痛さ、怖さ」と
「やわらかく優しい希望や、生きようとする意思」
を同時に感じました。

この作品をもっと見やすい形に整えて電子絵本化したら、
もっと沢山の方に見てもらえるはず、、
と、思わず にしのさんに提案していました。

菅原さんが生み出した絵本「いのり～ポポからの招待状～」を
一人でも多くの方に見て頂きたいと祈りながら、
この作品の制作作業を進めました。

2012年3月

HEART ART きむらさやか

被災地とつながる絵本
『いのり～ポポからの招待状～』
作・菅原みさお

<http://p.booklog.jp/book/46837>

本文テキスト作成：にしのよしえ

企画制作：☆HEART ART☆ きむらさやか

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46837>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46837>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.